

県産材製材品の表面線量調査の結果について

1 目的

県内の製材工場において、製材品の表面放射線量を定期的に測定し、現在出荷されている県産材の安全を確認する。

2 調査時期 平成25年11月26日～平成26年1月24日

3 調査事業者数

対象工場聞き取り調査の結果、現在県産材を製材、出荷している132事業者について調査した。

4 調査方法（製材品の表面線量調査）

各調査工場の出荷製品について、柱、梁、板材等、品目毎に3検体以上を抽出し、製材品の表面線量（単位 cpm）を測定した。

【調査事業者の内訳】

区分	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	合計
事業者数	19	31	21	14	10	10	27	132
検体数(本)	190	235	182	114	60	46	270	1,097

5 調査結果

現在県産材が出荷されている132工場における表面線量調査の結果、表面線量の最大値は28cpm（0.001 μ Sv/h*に相当）であった。

28cpmの測定値について、放射線防護に詳しい、国立大学法人長崎大学松田尚樹教授及び元 独立行政法人放射線医学総合研究所 緊急被ばく医療研究センター 高田主任研究員に確認したところ、環境や健康への影響はないとの評価が得られた。

※参考	震災前の福島市の空間線量 (H22.2.16)	0.04 μ Sv/h
	東京都新宿区における空間線量 (H26.1.28)	0.035 μ SV/h

【調査結果内訳】

区分	表面線量 (cpm)				合計
	未検出	~20	~40	40以上	
工場数	65	63	4	0	132
検体数(本)	917	170	10	0	1,097

最大値：28cpm
 最小値：0cpm
 平均値：1cpm

6 現在までの調査結果について

平成23年12月、平成24年3月、6月、9月、12月、平成25年3月、6月、9月に調査を実施した。(計8回)

区分	調査時期	工場数	検体数	表面線量の最大値 (cpm)	備考
第1回	H23.11.10 ~12.7	31	544	50	県内の主要な工場について実施した。
第2回	H24.1.25 ~3.8	49	321	92	線量の高い県北、相双、県中の一部地域において稼働している全ての工場で実施した。
第3回	H24.6.4 ~7.24	135	1,058	61	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第4回	H24.9.3 ~11.6	156	1,224	51	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第5回	H24.11.22 ~H25.2.4	135	1,177	31	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第6回	H25.3.1~ H25.5.31	121	1,076	35	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第7回	H25.5.27~ H25.7.19	153	1,301	24	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第8回	H25.8.28~ H25.10.30	134	1,124	25	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
今回調査	H25.11.26 ~H26.1.24	132	1,097	28	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。

7 今後の対応

今回と同様の調査を定期的（3ヶ月に1回）に行い、製材品の安全を確認する。

<参考> cpm（測定値）から $\mu\text{Sv/h}$ への換算表

計測器の指示値 (バックグラウンドを差し引いた値) (cpm)	$\mu\text{Sv/h}$
100	0.0033

独立行政法人：産業技術総合研究所作成

※詳細については下記 URL を参照してください。

http://www.aist.go.jp/aist_j/rad-accur/pdf/case_study_1_table_j.pdf